

福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

ペガサスベビー保育園

横浜市港北区新横浜 1-19-18 パルク新横浜 101

運営主体: 社会福祉法人 山百合会

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価（評価結果についての講評）	2～3 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	4～5 ページ
● 分類・項目別評価結果	6～19 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	20～27 ページ
● 利用者本人調査分析	28～29 ページ
● 事業者コメント	30 ページ

公表日: 2019 年 12 月

実施機関: 特定非営利活動法人市民セクターよこはま

実施概要

事業所名	ペガサスベビー保育園（三歳未満児施設）		
報告書提出日	2019年12月9日	評価に要した期間	7ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

■評価方法

1、自己評価 実施期間 2019年5月17日～2019年9月6日	① 職員全員に事前に自己評価票を配布し、各自目を通してもらった上で会議を行い趣旨説明と読み合わせを行った。 ② 常勤会議、非常勤会議でそれぞれ項目ごとに意見交換を行い、確認していった。全体の確認が終了後園長、主任でまとめの作業を行った。
2、利用者家族アンケート調査 実施期間 2019年9月9日～2019年9月20日	① 全園児の保護者（19世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者が無記名で記入し、保育園設置の鍵付き回収箱に入れる、または返信用封筒で評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
3、訪問実地調査 実施日:2019年10月23日	① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、保育観察。園長、主任に面接調査。 ② 昼食：園児の食事の様子を観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士2名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。その後、園長・主任に面接調査。午睡後の様子を保育観察最後に意見交換を行い、終了。
4、利用者本人調査 実施日:2019年10月23日	① 観察調査は、調査員が保育室にて実施し、戸外・園外での活動も観察した。

総合評価（評価結果についての講評）

【施設の概要】

ペガサスベビー保育園は、JR 横浜線および横浜市営地下鉄「新横浜」駅から歩いて7分ほどのところにあります。オフィスビルやマンションなどが建ち並ぶ街中がありますが、徒歩圏には複数の公園や鶴見川の土手があり、子どもたちが季節の自然に触れることができます。

ペガサスベビー保育園は、平成12年11月に社会福祉法人山百合会によって設立されました。運営法人は、他に港北区に3園、緑区に2園、旭区に1園、認可保育園を運営しています。

園は、10階建てマンションの1階にあり、ワンフロアを0・1歳児の2つの保育室に仕切って用いるほか、事務室、調理室などに用いています。5階には事務室・職員休憩室などがあります。

定員は20名（産休明け～1歳児）、開園時間は、平日・土曜日とも7時～20時です。

保育理念は「女性が安心して子どもを産み育てられ、仕事と育児が両立できるような社会をつくりたい。そのような社会づくりに保育を通して貢献（支援）する」、保育目標は「子ども達の笑顔と未来のために」保育方針は「時間・空間・仲間を大切に、また食事のあり方を大切にすることを重視し、子ども達が各々、その子らしく自信を持って生きていける力を養う土台作りを目指します」です。

◆高く評価できる点

1、落ち着いた環境の中、子どもたちはのびのびと園生活を過ごしています

園は、保育方針に基づき、子どもたちが安心して自分を出せる環境作りに力を入れています。保育室には子どもの発達や興味、状況にあわせた様々なおもちゃが、子どもの手の届く所に置かれています。また、子どもの状況にあわせて、サークルやマット、仕切りなどを用いてコーナーを作ったり、スペースを広げたりし、子どもが発達にあわせて遊んだり、身体を動かしたりできるようにしています。

自由遊びの時間には、子どもたちは、自由に好きなおもちゃを選んでそれぞれのペースで遊んでいます。観察時にも、色々なおもちゃを袋に詰めて歩き回ったり、ままごとや人形でごっこ遊びをしたり、保育士と一緒にブロックで作品を作ったり、好きな絵本を選んで保育士の膝の上で読んでもらったりと、それぞれが好きなことをして遊んでいる姿を見ることができました。保育士は、子どもの遊ぶ様子を見守り、子どもに声をかけてごっこ遊びに広げたり、友達と一緒に遊べるように言葉を足して仲立ちしたりしていません。

園庭はありませんが、晴れていれば毎日散歩に出かけ、近隣の住民と挨拶を交わしたり、季節の自然に触れています。マットの上で這い這いしたり、歩きたい子どもは保育士と手をつないで歩いたり戸外で自由に身体を動かしています。毎日の繰り返しの中で、子どもたちは少しずつ歩く距離を広げていき、1歳児の後半には横浜国際競技場の公園まで歩いてでかけるまでに育っています。

食事は楽しく食べることを大切にされていて、5種類ほどの季節の野菜を大きな盆に盛り付けて子どもたちがトングを使って自分でお皿に盛り付けて好きなだけ食べる野菜バイキングなどの楽しい取り組みをしています。また、トマトやオクラ、サツマイモなどの野菜を育てて、調理してもらって食べたり、野菜スタンプを楽しんだりし、子どもたちが食材に興味を持てるようにしています。

子どもたちは、保育士の見守りのもと、自由に自分の好きなことをしていて、「昼間のおうち」にいるかのようにのびのびと楽しく園生活を過ごしています。

2、保育士は子どもに優しく接し、一人一人の子どもに寄り添っています

年度初めの職員会議で理念や方針について確認するとともに、折りに触れて職員会議で取り上げ、目指す保育の方向性について話し合っています。非常勤職員に対しては、毎月非常勤会議を行い、情報共有し意見交換しています。全職員、年度初めに目標管理シートと自己評価表を用いて目標設定し、年度末には自己評価しています。自己評価表には、「子どもを主体とした保育」「子どもの発達や段階に合わせた保育の実践」などの項目があり、子どもとの関わりについて保育士自身が自己の保育を振り返られるようになっています。

このような取り組みを通して保育士は方向性を共有し、連携して保育にあたっています。保育士は、子ども一人一人に優しく話しかけ、子どもとコミュニケーションを取っていて、一人一人の子どもの発言や、言葉にならないつぶやき、表情、反応などに一つずつ丁寧に応じ、子どもの気持ちに寄り添っています。保育観察時にも、子どもたちは、素直に自分の気持ちを言葉や身体で表現し、保育士に自分から近づき甘えていて、園の方針が実践されていることを確認することができました。

3、保護者が安心して子育てができるよう、支援しています

園は、入園説明会や懇談会で園の理念や方針について保護者に説明するとともに、毎月の園だよりでも園の目標を具体的に分かりやすく保護者に伝えています。行事ごとにその時期の発達段階とねらいを説明し、行事後のアンケートで保護者の理解度を確認しています。

毎日、連絡帳を用いて情報交換するとともに、朝夕の送迎時には保護者と会話をし、園での子どもの様子をエピソードも交えて伝えて情報交換し、保護者の相談にのっています。年1回の個別面談のほか、必要に応じて随時面談を設定し、保護者の子育てについての悩みにこたえています。懇談会は年2回のクラス懇談会と2月の茶話会を行い、その時期に必要なテーマを決めて話し合いをしています。年度末の茶話会では、一年間の保育の様子を撮影したビデオを上映して、子どもたちの成長の様子を保護者が実感できるようにしています。

このような様々な取り組みを通して、保護者との信頼関係が構築されていることが、今回の保護者アンケートの総合満足度で全員が満足と答えていることから読み取れます。

◆さらなる取り組みが期待される点

1、収集した情報を分析、活用していくことが期待されます

園は、行事ごとに保護者アンケートを実施し、その結果を園の自己評価に反映し、次年度の園運営に生かしています。

ヒヤリハットについては、保育日誌や電話ノート（職員間の連絡ノート）に記録して職員間で共有し、事例によっては職員会議等で話し合っています。ただし、データとしてまとめて集計し、時間や場所、要因などを分析して課題を引き出し、保育環境やマニュアルの見直しなどに反映するまでには至っていません。また、育児相談の記録や育児講座後アンケートについても、集計して保護者の傾向や地域ニーズの変化などを読み取り、新しい育児講座を検討するなどの活用はしていません。

情報を蓄積するまでは出来ているので、一歩進めて集計して課題を引き出し、今後の園運営に活用していくことが期待されます。

評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

1、人権の尊重

- ・保育目標は「子ども達の笑顔と未来のために」、園目標は「明るい笑顔でのびのびと」で子ども本人を尊重したものとなっています。年度初めの職員会議で運営方針、保育方針を配付し、確認しています。保護者に対してはパンフレット、園のしおりに記載し、入園説明会やクラス懇談会で説明しています。
- ・子どもに対する接し方や言葉遣い、声のトーン等について新人は採用前の3月に1週間運営法人の研修を受け、また全職員に対して年度初めに園長が研修を行います。職員は子どもをせかしたりすることはなく、落ち着いて穏やかに話しをし、子どもが言葉で表現できなくても表情や態度から思いを汲み取るように配慮しています。
- ・子どもと一対一で話し合う場合にはサークルを使用したり事務所の前の他の子どもが来ない保育室の隅のスペースを利用したりしています。またおむつ交換の際にはおむつ台や折りたたみの衝立を使用しています。
- ・守秘義務に関しては年度初めに園長から職員会議で職員に周知し、非常勤職員にも非常勤会議で周知しています。個人情報に関する書類は施錠できる場所に保管しています。保護者に対しては入園時の説明会で口頭で説明し、保護者からは写真その他の個人情報を園内で使用するならかまわない、という了承を得ています。

2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・保育士は子どもの言葉にならないつぶやきや表情、態度などから子どもの意思を汲み取り、言葉にして返して確認し、子どもの意見や要望を引き出しています。
- ・保育室の棚には子どもが取り出せる高さにブロックやままごと道具、その時々の子どもの興味をとらえた手作りおもちゃなどがおいてあります。子どもの発達状況に合わせておもちゃの種類や量をクラス会議で話し合い、月に1回程度おもちゃを入れ替えています。
- ・園はおはなしタイム（絵本の読み聞かせ）に力を入れていて、保育士と子どもが対話しながら話しをすすめていくことを大事にしています。
- ・プランター栽培をして子どもと一緒に苗を植え水をまき収穫し食します。食べる時にどの植物かわかるようなものを選び、ミニトマトやオクラ、いんげん、枝豆などを好んで栽培します。子どもたちは自分が育てたという気持ちがあり、トマトの苦手な子どもがミニトマトに手を出して食べたりしています。
- ・天気の良い日は積極的に園外に出かけています。月齢・年齢やその日の状況に合わせて散歩コースを選び四季折々の自然に触れ、自由に体を動かして遊んでいます。0歳児クラスで歩きたい子どもは保育士と手をつないで道中も歩きます。
- ・食事は楽しく食べることを大切にしています。プランター栽培で収穫した野菜を子どもと保育士で調理室に持って行くとそれらがおやつに出てくるのも子どもたちの楽しみです。また月に1回実施している野菜バイキングも子どもたちの楽しみです。
- ・食材は、バナナ以外は国産とし、野菜は旬のものを多く取り入れています。行事食に力を入れ季節感を出し、子どもにとって魅力的な盛り付けをめざしています。
- ・個別面談は保護者の希望を優先して日時を決め実施しています。保護者懇談会は年3回実施し、そのクラスの保育の目的や子どもたちの様子を具体的に伝え、またその時期に必要なテーマを決めて話し合いをしています。懇談会にはほぼ全員が参加しています。

3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・全体的な計画に基づき年間指導計画、月間指導計画、週案、デイリープログラムを作成しています。全園児、個別指導計画を作成していて、個別指導計画には、身体的発達に関する視点、社会的発達に関する視点、精神的発達に関する視点の項目ごとにねらいと配慮、子どもの姿、内容が記載されています。クラスで子どもの様子について話し合い、個別指導計画の作成、評価、見直しをしています。

- ・「苦情解決体制図」「意見・要望・苦情を解決するための仕組みの導入について」があり、園のしおりに掲載するとともに、体制図を玄関に掲示しています。玄関に意見箱を置くとともに、年2回の懇談会や茶話会、行事後のアンケートで保護者の意見を聞いています。保育士は、毎日の保護者との会話から保護者の意見や要望を聞き取っています。
- ・健康管理、衛生管理、安全管理などのマニュアルを整備し、職員に周知しています。重要なものは保育室にも置き、嘔吐処理などについてはカラー写真をつけてわかりやすくしています。マニュアルは毎年見直しています。

4、地域との交流・連携

- ・園の専門性を生かしたサービスとして、園主催の育児講座を年に6回実施し、毎回5～8組の親子が参加しています。テーマは離乳食、ベビーマッサージ、救急法が定番化しています。またランチ交流を月に1回実施し、各回一組の親子を受け入れています。主任が一对一对応し食事の悩みなどについての相談も受けています。そのほか一時保育は希望者に登録してもらっています。
- ・地域の保護者に向けた育児相談は、定期的を開催する園主催の育児講座やランチ交流の際に受けています。育児講座などの園の情報は横浜市港北区の「ココアプリ」に掲載され、地域の自治会館や園の窓にも掲示しています。
- ・園に対する理解促進のための取り組みとして、マンションの管理人とは日常的に交流し園の動きなどを理解してもらっています。クリスマスにはマンションのロビーでマンション住人向けにコンサートを行い、定例化しています。

5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・サービス規程および「経営指針と職員の行動規範」に組織および職員が守るべき法、規範、倫理等を明文化し、職員会議で職員に周知しています。他施設での不正、不適切な事案は職員会議等で話し合い、職員に周知しています。他施設での事故事例から散歩コースの見直しをし、黄色い旗を取り入れたなどの事例があります。
- ・運営法人のホームページに定款、事業報告書、決算書、苦情報告等を掲載し、情報公開しています。
- ・給食から出た生ゴミで堆肥を作り、希望する地域住民が自由に持ち帰れるように入口に置いています。廃油でプリン石けんを作ったり、自治会に協力しペットボトルのキャップリサイクルをしています。園だより「ECOへのこだわり」として園の環境配慮への考え方や取り組みを保護者に伝え、廃材を用いた手作りおもちゃを紹介しています。
- ・運営法人の5ヶ年計画があり、それを踏まえた単年度の事業計画が策定されています。

6、職員の資質向上の促進

- ・運営法人の教育訓練規定に基づき、園としての人材育成計画を策定しています。職員は、目標管理シート、園独自の自己評価表を用いて目標設定と自己評価をしています。年度末には、園長・主任が面談し達成度の評価をしています。
- ・嘔吐処理、散歩コースの見直し、離乳食、子どもを尊重する保育などの園内研修を実施しています。内部研修は複数回実施し、常勤・非常勤職員ともに必要な職員が参加できるようにしています。職員は、運営法人による階層別、職務別、担当年齢別の部会や横浜市や港北区南部エリアなどの外部研修に参加しています。研修に参加した職員は研修報告書を作成し、回覧するとともに、職員会議でも報告しています。
- ・職員は職員研修実行表を用いて、目標設定し、参加した研修ごとに課題と研修内容を記載し、年度末には振り返りをしています。研修実行表には自己研鑽も記載し、自分で確認できるようにしています。
- ・非常勤職員に対しても目標管理シートを用いて人材育成しています。毎月非常勤会議を実施し、職員会議の報告をして情報共有し、意見や気づき、疑問点などを聞いています。
- ・職員の自己評価と年間を通した保護者アンケート結果をもとに職員会議で話し合い、園としての自己評価を作成しています。園の自己評価は、年度末におたよりにして保護者に配付しています。

分類別評価結果

※  ← 「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。

3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある

※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

評価領域 I 子ども本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>I-1 保育方針の共通理解と全体的な計画等の作成</p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が子ども本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)全体的な計画は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育目標は「子ども達の笑顔と未来のために」、園目標は「明るい笑顔でのびのびと」で子ども本人を尊重したものとなっています。年度初めの職員会議で運営方針、保育方針を配付し、確認しています。保護者に対してはパンフレット、園のしおりに記載し、入園説明会やクラス懇談会で説明しています。毎月の園だよりでも園の方針を具体的に分かりやすく説明しています。 ・全体的な計画は、園の基本方針に基づき、家庭の状況や地域の実態、周囲の環境を考慮して作成されていて、子どもの最善の利益を第一義にしています。年度初めの職員会議で全体的な計画、デイリープログラムの見直しをしています。保護者に対しては、年度初めの懇談会で年間指導計画について説明していますが、全体的な計画については行っていませんので、保護者が子どもの発達過程を理解し、先の見通しが持てるよう説明していくことが期待されます。 ・全体的な計画に基づき年間指導計画、月間指導計画、週案、デイリープログラムを作成しています。 ・保育士は子どもの言葉にならないつぶやきや表情、態度などから子どもの意思を汲み取り、言葉にして返して確認し、子どもの意見や要望を引き出しています。子どもの成長や関心、興味にあわせて月案や週案を柔軟に見直しています。
<p>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</p>  <p>(1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。</p> <p>(2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。</p> <p>(3)子どもの発達や状況に応じて指導計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・入園説明会後に担任、看護師が保護者と個別に面談しています。必要に応じて栄養士が同席しています。ならし保育中にも、担任、栄養士が個別面談をし、保護者が実際に試食をして離乳食の進め方を調整するなど、子ども一人一人に合わせて丁寧に対応しています。入園までの生育歴や家庭での状況、健康状態を、保護者に家庭環境調査票、健康台帳、健康についての情報、摂取食品確認書等に記入してもらい、入園前面接で確認しています。面接時に把握した情報は、クラス会議や職員会議で共有しています。 ・入園説明会で説明し、ならし保育を実施しています。ならし保育の期間は最短5日間を目安に、子どもの状況や保護者の職場への

<p>を作成しているか。</p> <p>(4)乳児保育(0歳児)において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。</p> <p>(5)1歳以上3歳未満児の保育において、適切な環境を整備し、生活や遊びが充実するよう配慮しているか。</p>	<p>復帰状況などを考慮し、保護者と相談しながら決めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めは主に担当する保育士を決め、生活面は同じ保育士が担当しています。タオルなど子どもが心理的拠り所とするものを持ち込むことができます。保護者とは毎日連絡帳を用いて情報交換しています。朝夕の送迎時には保護者とコミュニケーションを取って子どもの様子を伝えて相談にのり、安心して園生活を始められるようにしています。 ・入園当初は、子どもの様子により新入園児と在園児の活動を分けるなどしています。ならし保育で新入園児が帰った後には、関わり慣れた保育士が入ってスキンシップを取るなど、在園児が不安にならないように配慮しています。 ・クラス会議で子どもの姿や発達について話しあい、指導計画の作成、評価、見直しをしています。運動会の時間の設定など、指導計画には保護者の意向も反映しています。 ・0歳児保育においては、保育士は、一人一人の子どもの表情や喃語等に丁寧に応答し、子どもと信頼関係を築いています。子どもの発達に応じて広いスペースを作ったり、マットやサークルを用意したりし、一人一人の発達に応じて十分に身体を動かせるようにしています。おもちゃは手作りおもちゃや木のおもちゃ、布おもちゃなど手触りのよいぬくもりのある物をそろえています。感染症の流行時には消毒が行き届くプラスチックのおもちゃにするなど、子どもの興味や関心、季節や状況にあわせて入れ替えています。 ・1歳児以上児の保育においては、保育士は子どもの遊ぶ様子を見守り、子どもの自分でやろうとする気持ちややってみたくてやれない気持ち、やりたくない気持ち、甘えたい気持ちなど、一人一人の思いを受けとめ、寄り添っています。排泄や着替え、食事などは、子どもの気持ちにあわせて声掛けし、子どもが自分から取り組めるようにしています。晴れた日には毎日、散歩に出かけ、身体を動かし季節の変化を楽しんでいます。室内でもリズムや体操、斜面版、トンネルなどを取り入れ、子どもが全身を使う遊びを楽しめるようにしています。保育室には、人形やままごと、自動車、ブロック、絵本など子どもの成長や発達、興味、関心にあわせた様々な種類のおもちゃが並べられていて、子どもが自分で好きなおもちゃを選んで、遊べるようになっています。同じおもちゃでも色や形などを色々用意し、子どもが選べる幅が広がるようにしています。
<p>I-3 快適な施設環境の確保</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除チェック表を用いて清掃を行っていて、園内・外ともに清潔に保たれています。空気清浄機や次亜塩素酸除菌脱臭機を複数設置しています。おむつ替えや午睡前後などには、こまめに窓を開けて換気していて、気になる臭いはありませんでした。温湿度計、



(1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。

(2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。

(3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。

エアコンを設置し、温湿度チェック表を用いて温湿度の管理を適切に行っています。

- ・音が出るリズムなどは一緒に行い、クラスごとに違う活動をする時にはカーテンを閉め、お互いの音が気にならないように配慮しています。食事や午睡など生活の時間が異なる時には、カーテンを閉めています。保育士は穏やかに子どもに話しかけていて、できるだけ機械音は用いずリズムやダンスも保育士が歌っています。
- ・1歳児トイレに沐浴設備と温水シャワーの設備があります。沐浴、温水シャワーの設備は毎日清掃し、適切に管理されています。
- ・サークルやパーテーション、マット、テラスなどを用いて少人数で遊べるようにしています。食事後には清掃をしてから布団を敷いています。
- ・保育室は、ワンフロアを仕切って用いていて、日常的に異年齢で交流しています。子どもの状況にあわせて隣のクラスで遊んだり、行事やおはなしタイムを合同で行ったりしています。

I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力



(1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに合わせた個別指導計画を作成しているか。

(2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。

- ・全園児、個別指導計画を作成しています。個別指導計画には、身体的発達に関する視点、社会的発達に関する視点、精神的発達に関する視点の項目ごとにねらいと配慮、子どもの姿、内容が記載されています。クラスで子どもの様子について話し合い、個別指導計画の作成、評価、見直しをしています。食事や睡眠、排泄などの個別の課題については、日々のやり取りの中で保護者の意向を確認し、同意を得ています。
- ・子どもや家庭の個別の状況や要望は、入園時に保護者に家庭環境調査票に記載してもらっています。入園後の子どもの成長発達の様子は個人記録に記載しています。家庭環境調査票、個別支援計画、個人票、健康台帳等の子どもの記録は、個別に児童票ファイルにまとめられています。記録は1階事務室の施錠できる書類保管庫に置かれていて、必要な時にはいつでも確認することができます。クラス会議や職員会議、非常勤会議でも情報共有しています。

I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み



- (1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。
- (2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。
- (3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。
- (4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。
- (5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。

- ・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。
- ・個別のケースについて、クラス会議や職員会議などの各種会議で話し合っていて、記録があります。情報は記録し、1階事務室の施錠できる書類保管庫に置かれていて、必要な時には確認することができます。
- ・園内はバリアフリー構造となっています。
- ・保護者の同意のもと、横浜市総合リハビリテーションセンターの巡回相談で助言を受けています。障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成しています。保育士は、子ども同士の関係を見守り、子どもたちが障がいのあるなしに関係なく普通に关われるように働きかけています。
- ・虐待防止マニュアルがあり、職員会議で虐待の定義や見分け方についてについて周知しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、横浜市港北区こども家庭支援課や横浜市北部児童相談所と連携する体制ができています。
- ・子どものかかりつけ医の記載した「保育所におけるアレルギー疾患生活管理指導表」を保護者に提出してもらい、それに基づき適切な対応をしています。アレルギー対応マニュアルを作成し、職員に周知しています。食物アレルギーのある子どもには、毎月保護者に献立表を確認してもらい、除去食を提供しています。除去食を提供する際には、受け渡し時に職員間で口頭で確認し、除去内容を記載した札をつけ、トレイや食器も別にしてしています。テーブルや席も別にし、職員がついて見守っています。
- ・文化や生活習慣の違いを尊重し、宗教上の食事に対応するなどしています。意思疎通が困難な保護者には、ローマ字や平仮名で連絡帳を記載したり、配布物にルビを振るなど対応しています。翻訳機を用意し、必要があれば横浜市港北区役所に通訳ボランティアを頼むなど対応する予定です。

I-6 苦情解決体制



- (1)保護者が保育についての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- ・苦情受付担当者は主任、苦情解決責任者は園長で、第三者委員2名を定め、園のしおりに記載するとともに玄関に掲示し。保護者に周知しています。
- ・玄関に意見箱を置いています。年2回の懇談会や茶話会、行事後のアンケートで保護者の意見を聞いています。保育士は、毎日の保護者との会話から保護者の意見や要望を聞き取っています。
- ・外部の相談機関として、横浜市福祉調整委員会、かながわ福祉サービス運営適正化委員会を紹介しています。
- ・「苦情解決体制図」「意見・要望・苦情を解決するための仕組みの導入について」があり、園のしおりに掲載するとともに、体制図を玄関に掲示しています。
- ・保護者からの要望や苦情の内容とその対応については、会議等で話し合っています。要望、苦情は記録し、データとして生かされています。運営法人のホームページに苦情とその解決策を公表しています。

評価領域Ⅱ 保育の実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="156 271 464 300">Ⅱ－1 保育内容[遊び]</p>  <p data-bbox="156 465 576 636">(1)子どもが主体的に活動できる環境構成(おもちゃ・絵本、教材、落ちて置いて遊べるスペースなど)ができているか。</p> <p data-bbox="156 656 576 730">(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p data-bbox="156 750 576 920">(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p data-bbox="156 940 576 1111">(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、体を動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p data-bbox="156 1131 576 1256">(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p data-bbox="156 1276 576 1350">(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中でなされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none">・保育室の棚には子どもが取り出せる高さにブロックやままごと道具、その時々の子どもの興味をとらえた手作りおもちゃなどが置いてあります。子どもの発達状況に合わせておもちゃの種類や量をクラス会議で話し合い、月に1回程度おもちゃを入れ替えています。・保育室には子どもが5～6人入って遊べる大きさのサークルが設置しており、0歳児室のサークルには絵本を入れるウォールポケットを外側につけたり内側につけたりすることができます。マットを二枚合わせて大人数で遊べるようにしたり、一枚ずつをコーナー遊びになるようにセットしたりもします。1歳児室には棚利用のままごとコーナーがあります。それらを自在に活用し、その時々に応じて子どもが落ち着いて遊べるようにしています。・自由に遊ぶ時間は多く、保育士といっしょにブロックをつなげたりままごとのカップを重ねたりして遊ぶ子ども、1人で人形など好きなものを取り出してきて遊ぶ子ども、手作りのままごとコーナーで黙々とおもちゃの野菜を洗いフライパンに乗せガス台で焼いたりする子ども、絵本ラックの絵本を出したりめくったりする子どもと様々です。・園はおはなしタイムに力を入れていて、保育士と子どもが対話しながら話をすすめていくことを大事にしています。絵本だけでなくペープサートや歌、ダンスなどもある楽しい時間で子どもたちの楽しみになっています。・プランター栽培をしていて子どもと一緒に苗を植えて水をまき収穫し食します。食べる時にどの植物かわかるようなものを選び、ミニトマトやオクラ、いんげん、枝豆などを好んで栽培します。子どもたちは自分が育てたという気持ちがあり、トマトの苦手な子どもがミニトマトに手を出して食べたりしています。・年齢にあわせて体操やリズムを取り入れています。園の方針として機械音は使わず保育士が子どもの状況や動きを把握しながら歌声で、またキーボードを使用して、子どもが自分の能力に応じて全身で体を動かせるようにリードしています。・保育室はワンルームで0歳児室と1歳児室は低い柵で仕切られているだけなので、日々互いの様子が見えます。リズムやおはなしタイムは合同であることもあり、日常的に子どもたち同士の関わりが育っています。・けんかは主に一つのおもちゃのとりあい、保育士が同じおもちゃをもう一つ持ってきて解決することが多いですが、同じおもちゃではなくそれがほしくてとりあいがやまない時は、保育士がそ

の子ども気持ちを受け止めて話し合ったり、もっと良いものを探しに行こうと一緒に歩いて気持ちを転換させたりしています。

- ・職員は皆暖かい態度・言葉遣いで子どもたちに接していて、子どもたちは落ち着いて日々の園生活を送っています。
- ・天気の良い日は積極的に園外に出かけています。子どもが歩いていける距離の園外散歩コースが4コースあり、散歩マップを作っています。月齢・年齢やその日の状況に合わせてコースを選び四季折々の自然に触れ、自由に体を動かして遊んでいます。0歳児クラスでも歩きたい子どもは保育士と手をつないで道中も歩きます。

II-1 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に生かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。
- (13)長時間にわたる保育のための環境を整え、配慮した保育が行われているか。

- ・食事は楽しく食べることを大切にしています。プランター栽培で収穫した野菜を子どもと保育士で調理室に持って行くとそれらがおやつに出てくるのも子どもたちの楽しみです。また月に1回実施している野菜バイキングも子どもたちの楽しみです。基本的な定番野菜（大根、にんじん、ブロッコリー等）と季節の野菜（かぼちゃ、れんこん、さつまいも等）を5種類ほどスティック状にして大きなお盆に広げ、子どもたちが子ども用の Tongue で自分のお皿に盛り付けて好きなだけ食べています。Tongue が難しい子どもは保育士が手伝い、食べ方もそれぞれフォークであったり手づかみであったり自由になっています。
- ・食材はバナナ以外は国産とし、野菜は旬のものを多くとりいれています。行事食に力を入れ季節感を出し、子どもにとって魅力的な盛り付けをめざしています。食器は安全性も配慮し、重みのある陶器を使用し、子どもの発達に合わせてスプーンやお皿、ボール等を何種類か用意しています。
- ・子どもの好き嫌いについては保育士からの報告もあり調理職員も見に行き把握して、盛り付ける形や色合い切り方などを工夫しています。野菜バイキングや行事食の際には子どもと同席し、離乳の段階があがる時には意識して見に行きます。仕事が一段落したおやつの時にも様子を見に行くようにしています。
- ・家庭との連携として「給食だより」を毎月発行し、その季節のポイント、園の給食の目指していることや食育などについて載せています。また毎回その季節の作りやすいもの、例えば人気のおやつの桃ゼリーや芋もちなどのレシピを紹介し、保護者からの希望があればそのレシピも提供しています。
- ・日々その日の献立をスライドで掲示して保育園の食事に関心を持ってもらうようにしています。入園時のならし保育の際には保護者が子どもと一緒に給食を試食し、また年3回の懇談会も試食する機会とし、保護者からの質問や食に関する相談にも応じています。
- ・午睡時には気持ちよく眠れるようにマッサージをしたり子どもの

	<p>好きな寝方で寝られるようにし、室内をあまり暗くせず自然な明るさにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児突然死症候群への対策として、0 歳児には乳幼児呼吸管理センサーを使用し、0、1 歳児共に 5 分おきにブレスチェックをしています。また必ず仰向け寝で寝るようにしています。 ・トイレトレーニングは月齢などで始めるのではなく、一人一人の状況に応じ興味を持った時もとらえて進めています。トイレは楽しいところ、という認識を大切にしています。 ・園では布おむつを使用し、基本的には活動の前後におむつ替えをしています。排泄チェック表を利用して一人一人のリズムをとらえて適宜おむつを替えています。 ・懇談会でトイレトレーニングについて説明し話し合い、その時期のきた保護者とは連絡帳により、また日々の送迎時に密に連絡を取り合っています。 ・長時間保育が楽しみになるように、おもちゃは普段と違うものにし、また人数が少ないので一対一で遊べるおもちゃや見守りの必要な小さい木のおもちゃなどを長時間用にしています。長時間担当職員は常勤職員は交代ですが非常勤職員は決まった職員が担当しているため子どもは安心して過ごしています。
<p>Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]</p>  <p>(1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。</p> <p>(2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。</p> <p>(3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理マニュアルがあり、それに基づいて子どもの健康状態を把握しています。子どもの状態に変化があった場合、看護師と園長で判断し必要に応じて保護者に伝え、対応を話し合っています。歯磨き指導は 0 歳児では歯が出てきてから歯ブラシに慣れるようにし、1 歳児クラスでは歯磨きをし保育士が仕上げ磨きをしています。懇談会などで歯科医が保護者の指導をする機会もあります。 ・個別の健康診断・歯科健診の記録があります。健康診断・歯科健診の前に保護者の希望があれば医師への質問を受けています。診断結果は個別に紙面で報告していますが、注意事項などがある必要な場合は看護師から直接保護者に伝えます。園医への受診を勧める場合もあります。 ・感染症等への対応に関するマニュアルがあり、登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応はマニュアルに明記してあります。保護者には入園時に配付している「園のしおり」に明記しています。 ・感染症に関する最新情報は看護師が「保健だより」に掲載し、保護者と職員に伝えています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



(4)衛生管理が適切に行われているか。

- ・衛生管理マニュアルがあり、重要なものは保育室にも置き、嘔吐処理についてはカラー写真をつけてわかりやすくしています。マニュアルは毎年一回見直し、嘔吐処理などは毎年実習形態で看護師が職員に研修をしています。
- ・清掃はマニュアルに基づいて行い、消毒薬の濃度はわかりやすく表にして保育室に掲示し便宜を図っています。また掃除チェック表を活用しています。

Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



(5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

(6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

(7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・安全管理に関するマニュアルがあり、毎年見直しています。地震を想定し、棚や備品は固定しています。また安全点検チェック表を活用し、おもちゃに異常がないかというチェック、送迎時・園舎内・散歩時・プールに際して等のチェックをしています。
- ・事故防止・対応マニュアルを作成して全職員に周知しています。非常災害時の関係機関との連携体制があり、避難訓練を毎月実施しています。緊急連絡体制としては、災害伝言ダイヤル、一斉メールを活用しています。
- ・子どもの事故や怪我について、保護者や病院等との連絡体制が整っています。受診が必要かどうかの判断は園医と相談し、受診した場合は事故報告書に記載すると共に本部にも伝えます。事故については朝のミーティングで共有し、再発防止策を話し合います。小さいケガや話し合いは電話ノートにその時々記録していますが、記録をファイルし資料として検討・分析することがさらに望まれます。
- ・不審者対策として玄関は二重ロックにしてあり、来園者をモニターで顔と名前を確認しています。また防犯カメラ、民間警備会社の通報システムを導入し、民間警備会社の通報システムで緊急通報が行われます。
- ・不審者の情報は横浜市港北区や市のメールで伝えられ、またマンションの管理人からも伝えられます。夕方の降園時は見守り人を配置しています。

Ⅱ－３ 人権の尊重



(1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

(2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

(3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知している

- ・子どもに対する接し方や言葉遣い、声のトーン等について新人は採用前の３月に１週間受ける運営法人の研修の中で学びます。また全職員に対して年度初めに園長が研修を行います。職員は子どもをせかしたりすることはなく、落ち着いて穏やかに話しをし、子どもが言葉で表現できなくても表情や態度から思いを汲み取るように配慮しています。
- ・保育室のおもちゃの棚からおもちゃが取り出されて空になると、子どもにとっては小さい一人部屋のようになります。子どもは好んでそこに入りこんで遊びます。子どもと一対一で話し合う場合にはサークルを使用したり事務所の前の他の子どもが来ない保育室の隅のスペースを利用したりしています。またおむつ交換の際にはおむつ台や折りたたみの衝立を使用しています。

か。

(4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

- ・守秘義務に関しては年度初めに園長から職員会議で職員に周知し、非常勤職員にも非常勤会議で周知しています。個人情報に関する書類は一階事務室の施錠できる書類保管庫に保管し、子どもの名前をつけたカゴなどは外部の者が保育室に入る場合にはカゴの位置を変えて名前が見えないようにしています。保護者に対しては入園時の説明会で口頭で説明し、保護者からは写真その他の個人情報について園内で使用するならかまわない、という了承を得ています。
- ・遊びや服装、順番などで性差による区別をしていません。また性差に関して固定的なとらえ方や話し方もしていません。職員間で性差による固定観念が見られることはありませんが、あった場合に互いに注意し合う体制があります。

II-4 保護者との交流・連携



(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。

(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。

(3)保護者の相談に応じているか。

(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。

(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。

(6)保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

- ・保護者に対して園の目標を入園説明会、また懇談会で説明しています。入園時に配付する「園のしおり」にも園目標、保育目標、保育方針を明記しています。さらに4月の園だよりには園目標のコーナーを設け、わかりやすく説明しています。
- ・送迎時には一対一で保護者と話し合うようにし、連絡帳で園からは日々園での様子を伝え、保護者からの記述で大切な内容は必ず園からコメントを出しています。
- ・個別面談は保護者の希望を優先して日時を決め実施しています。保護者懇談会は年3回実施し、そのクラスの保育の目的や子どもたちの様子を具体的に伝え、またその時期に必要なテーマを決めて話し合いをしています。懇談会にはほぼ全員が参加しています。
- ・保護者からの相談は日常的に送迎時に受けていますが、特に必要な場合は時間を設け、場所も他の保護者に聞かれないように配慮して対応しています。相談はクラスノートや電話ノートに記録しますが、必要な場合には個別のケース記録に記録し継続的にフォローできるようにしています。
- ・毎月園だより、クラス便り、給食だより、保健だよりを発行しています。その日の保育の様子は「速報」として日々写真や文章で掲示しています。
- ・行事のおみやげに園の手作りおもちゃを一人一人にプレゼントし、家で遊べるようにして園との連携をも図っています。
- ・保育の様子を一年間ビデオに撮っていき、年度末の茶話会で保護者に上映し、子どもたちの成長の様子、保育のねらいなどを伝えています。
- ・年間行事予定を新年度が始まる前の入園・進級説明会の際に配付しています。保育参加を随時積極的に受け入れています。参加者は現在のところ多くはありません。参加を促すための更なる工夫が期待されます。
- ・保護者の組織はありませんが、運動会などの行事の際は保護者の協力があり、日ごろからコミュニケーションがとれています。

評価領域Ⅲ 地域支援機能

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて保育所の専門性を生かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市港北区や地域（港北区南部エリア）の育児講座に職員が参加し、出席した地域の保護者との交流やアンケート結果から地域のニーズを把握するようにしています。また地域の保護者に対する園主催の育児講座やランチ交流等で育児相談に乗り、地域のニーズを把握しています。今後は、把握した地域のニーズを検討・分析してサービスをさらに充実させることが望まれます。 ・園の専門性を生かしたサービスとして、園主催の育児講座を年に6回実施し、毎回5～8組の親子が参加しています。テーマは離乳食、ベビーマッサージ、救急法が定番化しています。またランチ交流を月に1回実施し、各回一組の親子を受け入れています。主任が一对一对応し食事の悩みなどについての相談も受けています。そのほか一時保育は希望者に登録してもらっています。
<p>Ⅲ－２ 保育所の専門性を生かした相談機能</p>  <p>(1)地域の保護者や子ども等への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・育児相談を随時受け付けていて、横浜市港北区のホームページや「びーのびーの」にその旨を掲載しています。年に6回開催する園主催の育児講座、月1回のランチ交流の際にも育児相談を受けています。今後は、記録をファイルして活用することが望まれます。 ・育児講座などの園の情報は横浜市港北区の「ココアプリ」に掲載され、地域の自治会館や園の窓にも掲示しています。 ・関係機関との連携体制として、港北区のケースワーカーや保健師、園医、リハビリテーションセンター、地域子育て支援拠点等関係機関をリスト化して職員が共有しています。関係機関との連携担当者は園長と主任が受け持っています。

評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p>  <p>(1)保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・衛生上の観点から他の施設との交流は行っていません。また地域に乳児向けのイベントなどは行われておらず、地域のイベントなどへの参加はありません。 ・園に対する理解促進のための取り組みとして、マンションの管理人とは日常的に交流し園の動きなどを理解してもらっています。クリスマスにはマンションのロビーでマンション住人向けにコンサートを行い、これは定例化しています。また地域の地区センターに紙芝居やエプロンシアターの貸し出をしています。 ・子どもと地域との交流としては日常的に散歩に行っていて、行き会う人たちとは挨拶をしたりしています。また園外散歩コースに日産スタジアムコースがあり、国際競技場の公園を利用しています。

<p>IV-2 保育所における福祉サービスに関する情報提供</p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園の情報は法人のホームページ、パンフレット、区の広報誌などで提供しています。外部の情報提供媒体としては「びーのびーの」に園の情報を提供しています。 ・園に対する問い合わせに対しては園長と主任が常時対応できるようにしています。見学は午前中は子どもは園外に出ていることが多いため、園での子どもたちの活動が見られるように基本的には3時からの遊びの時間を勧めています。その他の時間も見学希望者の要望に合わせるように配慮しています。見学は予約してもらい、主任が一对一で対応しています。
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア受け入れのためのマニュアルを作成しています。衛生上の観点から基本的にはボランティアを受け入れていませんが、受け入れ体制はあります。受け入れと育成は園長及び主任が担当します。 ・実習生受け入れのマニュアルを作成し、受け入れに際してはマニュアルに基づいて職員や保護者に基本的な考え方や方針を説明します。 ・受け入れの担当者は園長か主任が当たっています。実習は実習生の希望や目的等を配慮してプログラムを組み、実習の終わりには職員との反省会を行っています。

評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>V-1 職員の人材育成</p>  <p>(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・園長、主任は保育所運営に十分な人材であるかチェックし、必要な人材の補充を行っています。採用は運営法人が行っています。保護者のさまざまな要望に合わせた対応を幅広い年齢層の職員でできるよう、職員の若返りを図っています。 ・運営法人の教育訓練規定に基づき、園としての人材育成計画を策定しています。職員は、目標管理シート、園独自の自己評価表を用いて目標設定と自己評価をしています。年度末には、園長・主任が面談し達成度の評価をしています。 ・園長、主任が職員のキャリアパスや経験、年数、希望などを考慮し、研修計画を作成しています。職員が希望する研修に参加できるよう、外部研修の案内を掲示しています。 ・嘔吐処理、散歩コースの見直し、離乳食、子どもを尊重する保育などの園内研修を実施しています。内部研修は複数回実施し、常勤・非常勤職員ともに必要な職員が参加できるようにしています。運営法人による階層別、職務別、担当年齢別の部会があり、該当する職

員が参加しています。職員は、横浜市や港北区南部エリア、白峰学園保育センターなどの外部研修に参加しています。研修に参加した職員は研修報告書を作成し、回覧するとともに、職員会議でも報告しています。

- ・園長、主任は研修報告書をチェックし、研修の成果を確認しています。職員は職員研修実行表を用いて、目標設定し、参加した研修ごとに課題と研修内容を記載し、年度末には振り返りを行っています。研修実行表には自己研鑽も記載し、自分で確認できるようにしています。
- ・業務マニュアルを作成し、いつでも確認できるように5階事務室に置いています。嘔吐処理や緊急時の対応、清掃方法などについては分かりやすいフローチャートにまとめて必要な所に掲示しています。
- ・非常勤職員に対しても目標管理シートを用いて人材育成しています。非常勤職員も内部研修に参加するほか、希望により外部研修にも参加しています。非常勤職員の指導担当は主任で、職員間のコミュニケーションを図っています。毎月非常勤会議を実施し、職員会議の報告をして情報共有し、意見や気づき、疑問点などを聞いています。

V-2 職員の技術の向上



(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。

(2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を振り返り、改善に努める仕組みがあるか。

(3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。

- ・職員の自己評価および園としての自己評価を行う仕組みがあります。
- ・外部研修や会議などで得た良い事例をもとに、職員会議で保育の質の向上に向けて話し合っています。主任研修で聞いた事例を受けて非常勤会議を取り入れたことにより非常勤職員の意見などを吸収しやすくなった、港北区南部エリアの園長会議での話から散歩時に黄色い旗を持つことにしたなどの事例があります。横浜市総合リハビリテーションの巡回相談や運営法人の契約する臨床心理士などから保育環境などについてのアドバイスを受けています。
- ・指導計画や日誌には振り返りの欄があり、定型化されています。子どもを主体とした保育、保育の実践、保育環境・衛生管理・安全面などの評価の視点に沿って自己評価できるように定型化された園独自の自己評価表があります。振り返りは計画で意図したねらいと関連づけて行われています。自己評価の結果は次期の指導計画に反映しています。
- ・職員の自己評価と年間を通した保護者アンケート結果をもとに職員会議で話し合い、園としての自己評価を作成しています。自己評価の結果から園としての課題を明らかにし、改善に取り組んでいます。園の自己評価は理念や方針、全体的な計画に沿って行われています。園の自己評価は、年度末におたよりにして保護者に配付しています。

V-3 職員のモチベーションの維持



- (1)総合的な人事管理が行われているか。
- (2)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・運営法人の理念、基本方針に基づく人材育成計画があります。配置や昇進、昇格に関する基準を給与規定に明記し、職員に周知しています。目標管理シート、自己評価表を用いて職員の専門性や職務遂行能力、貢献度等を評価する仕組みがあります。意向面談時に職員の意向や意見を聞き、検討しています。評価の結果は、個別面談時に職員にフィードバックしています。
- ・教育訓練規定に経験・能力に応じた役割が期待水準として明文化されています。
- ・クラスリーダー、衛生管理、行事リーダーなどで現場の職員に可能な限り権限を委譲し、組織図で責任を明確化しています。職員会議や非常勤職員会議で職員の意見や提案を聞いています。自己評価表に基づく年度末の園長・主任面談や意向面談で職員の満足度や要望を把握しています。

評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p>VI-1 経営における社会的責任</p>  <ul style="list-style-type: none"> (1)保育所として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。 (2)公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われているか。 (3)保育の質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 服務規程および「経営指針と職員の行動規範」に組織および職員が守るべき法、規範、倫理等を明文化し、職員会議で職員に周知しています。他施設での不正、不適切な事案は職員会議等で話し合い、職員に周知しています。他施設での事故事例から散歩コースの見直しをし、黄色い旗を取り入れたなどの事例があります。 ・ 運営法人のホームページに定款、事業報告書、決算書、苦情報告等を掲載し、情報公開しています。 ・ 経理規定に事務、経理、取引等に関するルールや職務分掌を定めています。経理規定をいつでも確認できるように事務室に置き、職員にルールがありいつでも確認できることを伝えています。運営法人の監事による内部監査を受けていて、ホームページに監査結果を載せています。税理士による指導を受けています。 ・ ゴミの分別をしています。布おむつを使用しゴミの減量化に努めています。廃材を利用して手作りおもちゃを作っています。給食から出た生ゴミで堆肥を作り、希望する地域住民が自由に持ち帰れるように入口に置いています。廃油でプリン石けんを作ったり、自治会に協力しペットボトルのキャップリサイクルをしています。緑化の取り組みとしては、プランターで花や野菜を育てています。 ・ 園だよりに「ECOへのこだわり」として園の環境配慮への考え方や取り組みを保護者に伝え、廃材を用いた手作りおもちゃを紹介しています。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



- (1) 保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。
- (2) 重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。
- (3) 主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。

- ・ 玄関に経営理念と運営方針、園目標、保育室に園目標を掲示しています。職員に対しては入職時の新人研修で説明しています。年度初めの職員会議、非常勤会議で理念や方針を確認しています。園長、主任は計画や記録等をチェックするとともに、保育の様子を見て回り、気になる場面は会議等で取り上げ、周知徹底を図っています。個別面談時にも確認しています。
- ・ 重要な意思決定にあたっては職員に対しては職員会議で、保護者に対しては懇談会や個別に説明したり、おたよりで知らせたりしています。消費税の増税に伴うおむつ代の変更に際しては、保護者に個別に説明し、同意書を取りました。
- ・ 食物アレルギーのアナフィラキシー対応について保育士、看護師、栄養士でチームを作って取り組んだなど、異なる部門の職員による検討チームを編成し組織をあげて取り組む仕組みがあります。
- ・ 運営法人の教育訓練規定に主任クラスを計画的に育成するプログラムがあります。運営法人の主任部会や外部研修のコーチング研修などでスーパーバイズできる主任クラスを育成しています。主任はフリーの立場で保育室を回り、個々の職員の業務状況を把握し、職員の能力や経験に合わせて助言や指導をしています。
- ・ 主任はシフトの取りまとめを行う中で職員の状況を把握し、職員に個別に声をかけて相談にのるなどし、職員が精神的、肉体的に良好な状態で仕事に取り組めるように配慮しています。職員会議と非常勤職員会議で出た意見を橋渡しし、職員間のコミュニケーションの円滑化を図っています。

VI-3 効率的な運営



- (1) 外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。
- (2) 保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。

- ・ 園長は、横浜市や港北区、区南部エリアの園長会や社会福祉協議会の福祉部会などの各種会議に参加し、園運営に影響のある情報を収集、分析しています。重要な情報は運営法人の園長会で情報共有し、リーダー会議で報告し重要改善課題として設定しています。重要な改善課題は職員会議で報告し、園として取り組んでいます。
- ・ 運営法人の5ヶ年計画があり、それを踏まえた単年度の事業計画が策定されています。
- ・ 運営法人は次代の園運営に備え、運営やサービスプロセスの新たな仕組みを常に検討しています。運営法人の主任部会で次代の後継者を計画的に育成しています。
- ・ 運営に関して税理士や社会保険労務士、臨床心理士、産業医、連携する大学の教授などから助言を受けています。

利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2019年9月9日～9月20日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。
②各保護者より、保育園設置の鍵付き回収箱に入れる、または返信用封筒で評価機関にあてて無記名で返送。
- 3、回収率 89.5%（19枚配付、17枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…9人、1歳児クラス…8人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

※ 文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

- ・園の保育目標、保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の割合は合わせて76.5%で、その中で「賛同できる」(61.5%)「まあ賛同できる」(38.5%)と全員の保護者が答えていて、支持率は極めて高くなっています。
- ・項目の中で満足度の割合が100%であったのは、「園の目標や方針についての説明」「入園時の面接などでお子さんの様子や生育歴などを聞く対応」「クラスの活動や遊び」「園のおもちゃや教材について」「園外活動」「遊びを通じた友だちや保育者との関わり」「遊びを通じた健康づくりへの取り組み」「給食の献立内容」「お子さんが給食を楽しんでいるか」「昼寝や休憩」「園便りや掲示による情報提供」「園の行事の開催日や時間帯への配慮」「お子さんが大切にされているか」「お子さんが園生活を楽しんでいるか」「意見や要望への対応」の15項目です。
- ・一方、不満の割合が比較的高かった項目は、「入園前の見学や説明などの園からの情報提供」「年間の保育や行事についての説明」「施設設備」「保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会」の11.8%です。
- ・「見学の受け入れ」「おむつはずし」については、満足度が64.7%と低くなっていますが、「その他」「無回答」が35.3%となっていて、自由意見欄に「見学していません」「まだはずしていません」という記述が複数あります。
- ・総合的な評価については、「満足」が64.7%、「どちらかといえば満足」が35.3%、合わせて100%と全員が満足しています。
- ・自由記述欄には、「子どもは園に行くのが大好きです」「どの先生も本当に優しく親切です」などの感謝の言葉が複数寄せられています。また、「毎月懇談会を開いて写真を見たい」など、様々な意見がありました。

◆まとめ

- ・全項目37項目中、満足度が100%の項目が15項目と満足度が高くなっています。中でも問4「遊び」の設問は、6項目中5項目が100%となっていて、保護者が子どもの様子を見て安心し、信頼していることが、高い総合満足につながっていることが読み取れます。

利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2019年9月9日～9月20日

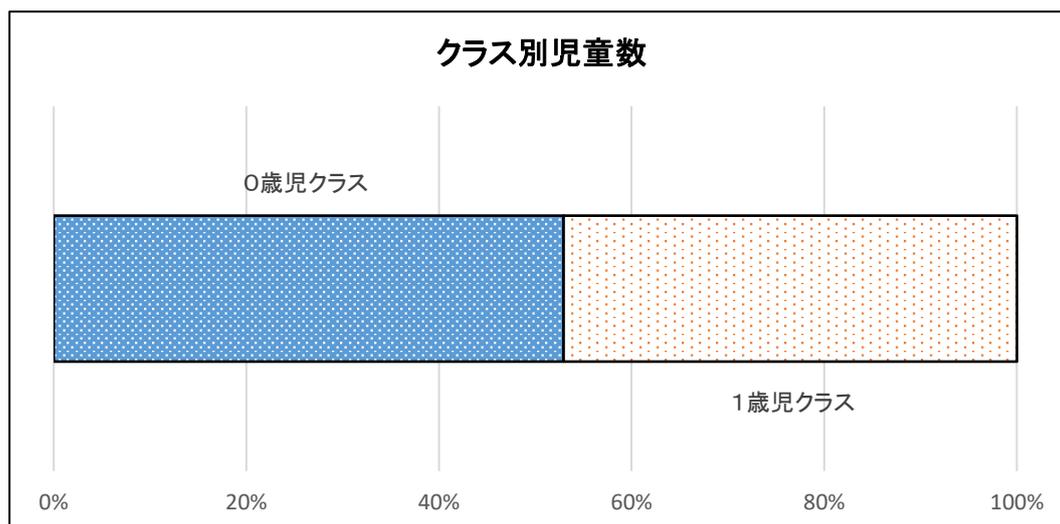
回収率：89.5%（回収17枚／配付19枚）

【属性】

クラス別児童数 (人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	無回答
17	9	8	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

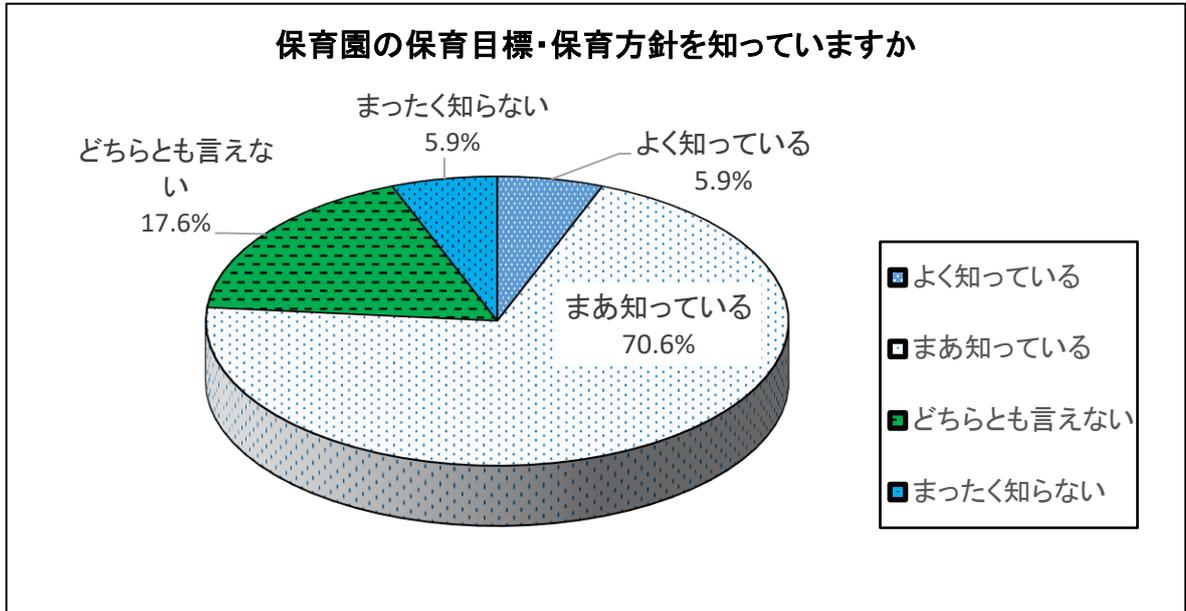


■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	5.9%	70.6%	17.6%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%

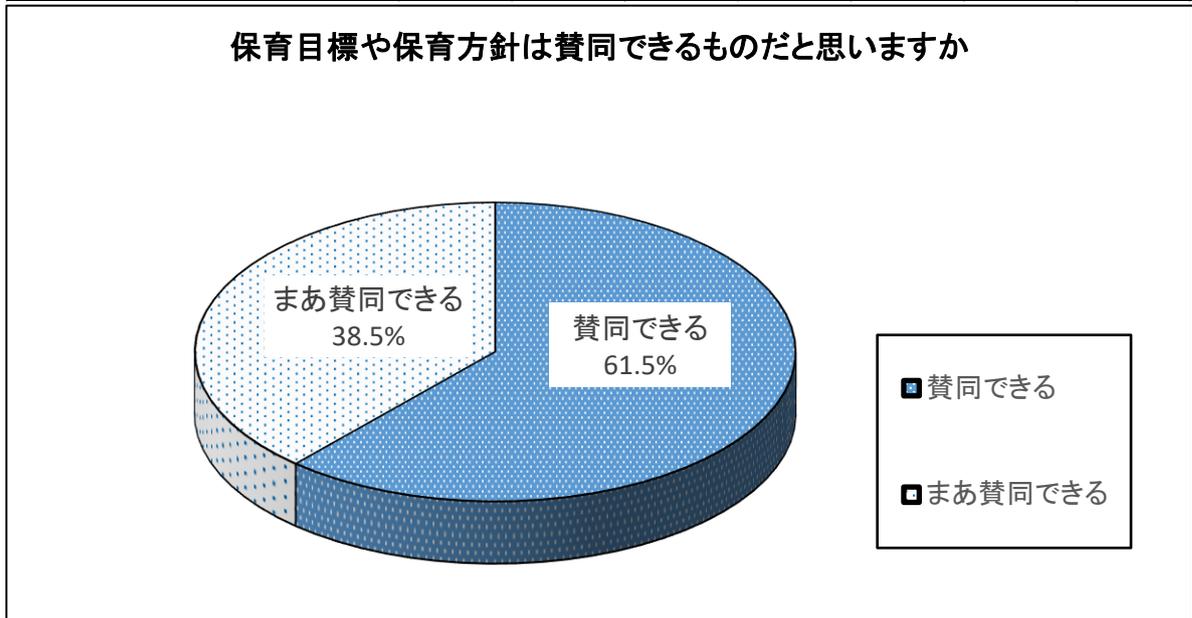
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	61.5%	38.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

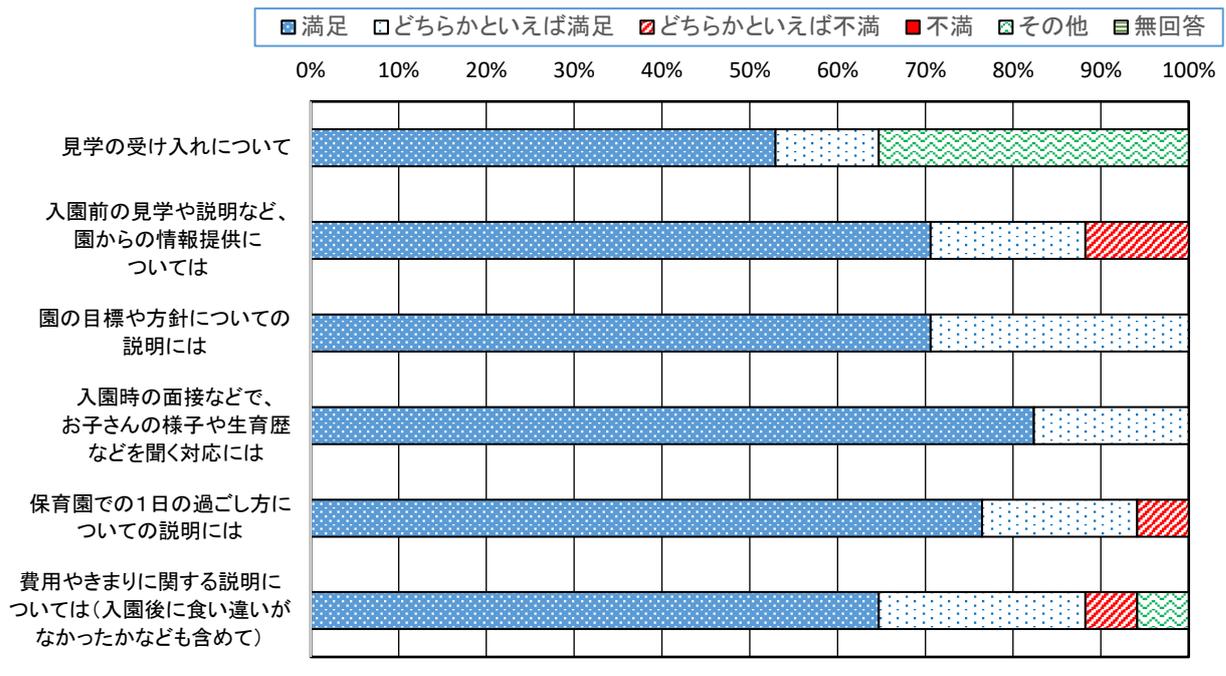


■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	52.9%	11.8%	0.0%	0.0%	35.3%	0.0%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	70.6%	17.6%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	76.5%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	64.7%	23.5%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%

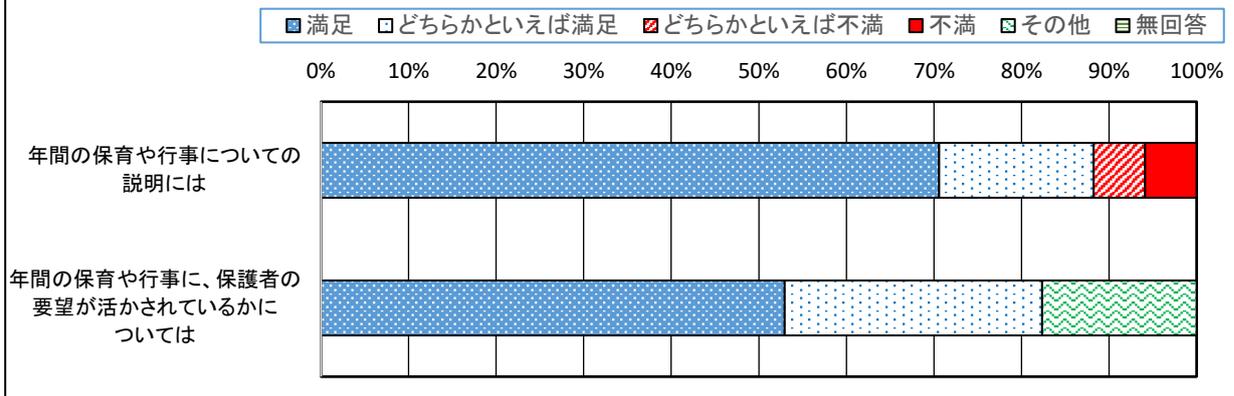
入園時の状況について



問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	70.6%	17.6%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	52.9%	29.4%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%	100.0%

年間の計画について

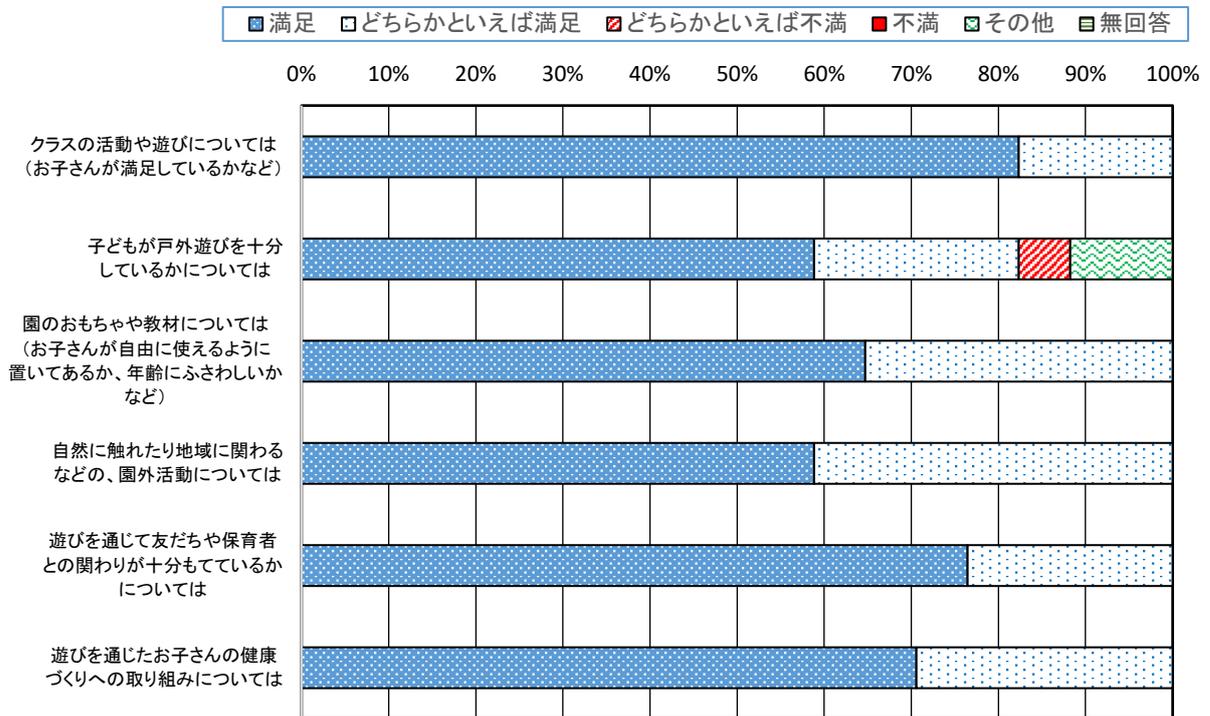


問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	58.8%	23.5%	5.9%	0.0%	11.8%	0.0%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	58.8%	41.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	70.6%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

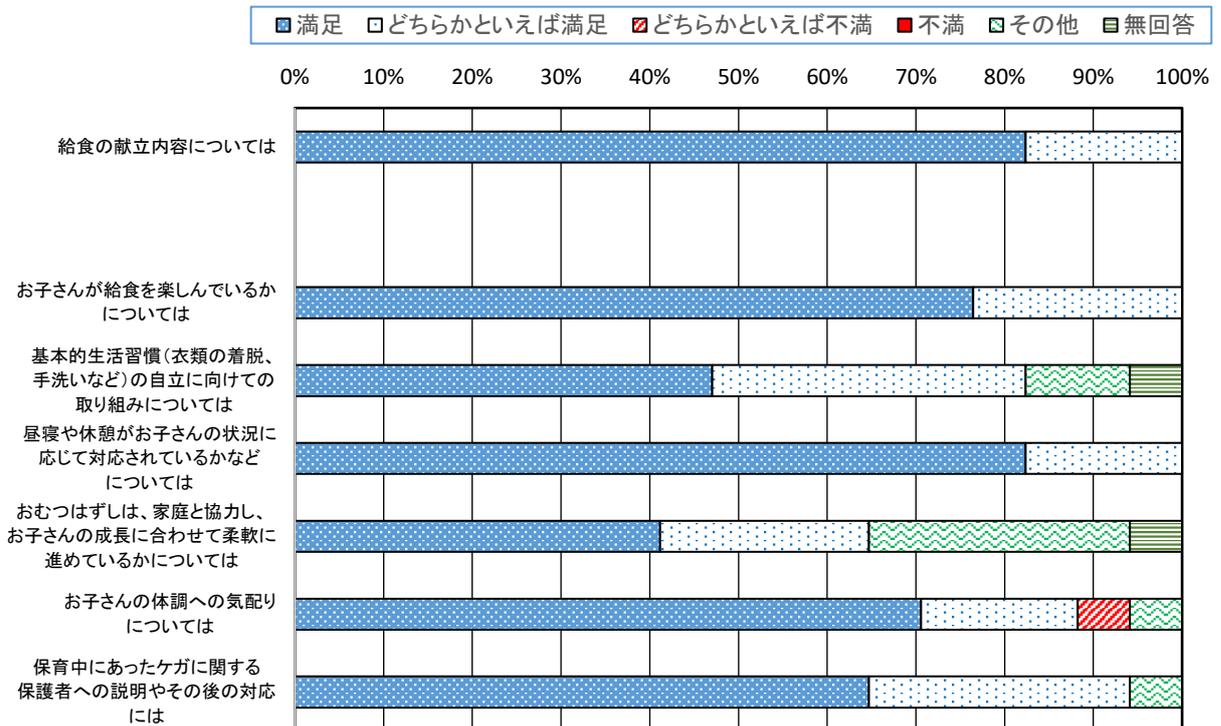
日常の保育内容「遊び」について



●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	47.1%	35.3%	0.0%	0.0%	11.8%	5.9%	100.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	41.2%	23.5%	0.0%	0.0%	29.4%	5.9%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	70.6%	17.6%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%
保育中であつたケガに関する保護者への説明やその後の対応には	64.7%	29.4%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%

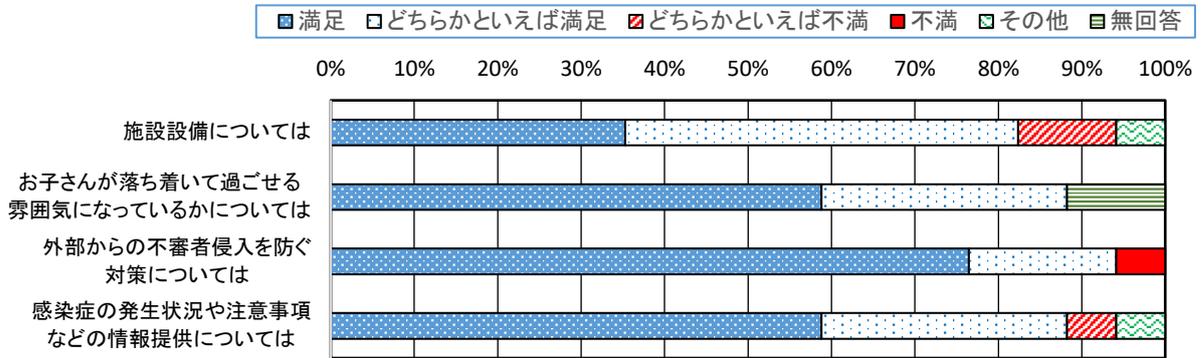
日常の保育内容「生活」について



問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	35.3%	47.1%	11.8%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	58.8%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	11.8%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	76.5%	17.6%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	58.8%	29.4%	5.9%	0.0%	5.9%	0.0%	100.0%

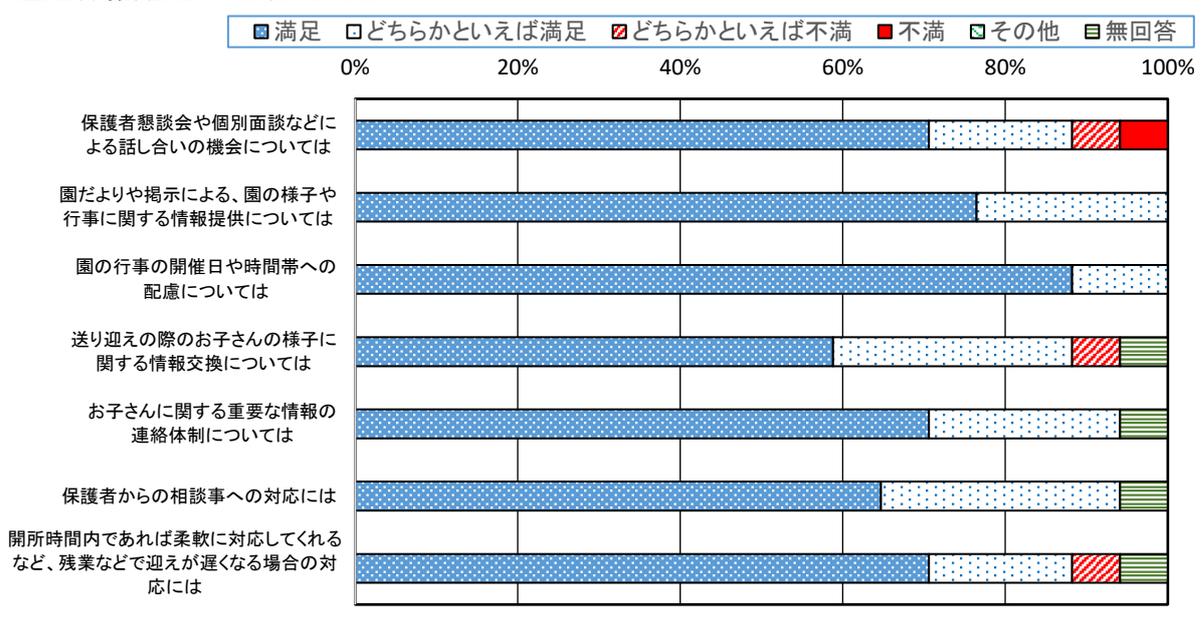
快適さや安全対策などについて



問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	70.6%	17.6%	5.9%	5.9%	0.0%	0.0%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	76.5%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	88.2%	11.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	58.8%	29.4%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	70.6%	23.5%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	64.7%	29.4%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	70.6%	17.6%	5.9%	0.0%	0.0%	5.9%	100.0%

園と保護者との連携・交流について



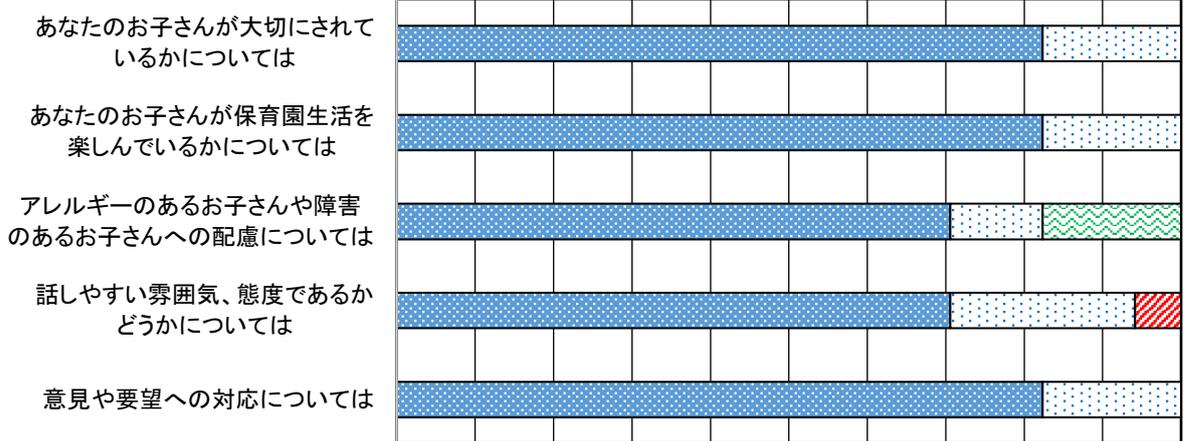
問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	70.6%	11.8%	0.0%	0.0%	17.6%	0.0%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	70.6%	23.5%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
意見や要望への対応については	82.4%	17.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

職員の対応について

■満足 □どちらかといえば満足 ■どちらかといえば不満 ■不満 ■その他 ■無回答

0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%

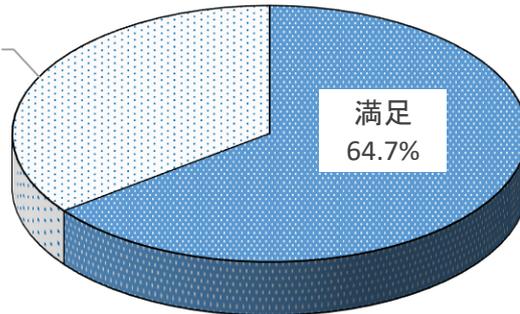


問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	64.7%	35.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

総合満足度

どちらかといえば満足
35.3%



■満足
■どちらかといえば満足

利用者（園児）本人調査 分析

◆ 観察調査 10月23日（水）

◆0 歳児クラス

生活

登園後ベッドで眠っている子どもが2人いました。その他の子どもは保育士といっしょに遊んでいます。その間一人一人おむつチェックをし、必要な子どもはおむつ台でおむつを取り替えてもらいます。保育士はにこやかに静かに話しかけたり歌を歌いかけたりしながら取り替えます。活動の前後などに保育士同士が声をかけ合いながら子どもの状況に合わせて取り替えていました。

食事は散歩の帰りに時間差をつけてまず離乳食の子どもが3人先に帰り、保育士と一対一で食事が始まります。そのうちに残りの子どもが帰ってきて机を囲んで食事になります。手づかみが多くさかんに食べます。スプーンに乗せて食べる子どももいました。保育士は食べやすいように声をかけ、汁物のお椀を両手で持って飲む子どもをいくらか介助したり、「もっと」とお替りを求める子どもに「こっちを食べてからね」と誘ったりしていました。

遊び

保育室の棚には子どもが取り出せるようにおもちゃがおいてあります。また大きなサークルの側面に何冊も絵本を入れるポケットのついたウォールポケットがかけてあります。子どもたちは保育士の膝に座って絵本を見たり、保育士と一緒にブロックを並べたり、つなげたりしていました。車輪をつけ高くつなげたブロックを走らせたり、黙々とカップを重ねたり、ウォールポケットから絵本を次々と取り出したりと、一人遊びもしています。つなげたブロックを両手に持って歩く子どもに保育士が「〇ちゃん、二つもつるとドーンと危ないよ」と言葉をかけ、二つを重ねました。

散歩はネックガードのついた帽子をかぶらせてもらい4人乗りのバギー二台で眠っていた子どもも一緒に8人全員で出かけました。公園に着くとまずお茶を飲みます。その間に保育士がゴミや危ないものがないか点検し、這い這いの子どものためにシートを広げました。シートに座った子どもはすぐにシートから手を出して砂をいじり始めました。歩く子どもは思い思いに歩きまわり保育士が見守ります。全員一緒に帰ろうとしたところ、一人がバギーに乗るのをいやがって泣きました。時間を考えて、歩く子どもはもう少し遊ぶことになりました。帰り道は歩きたい子どもが交代でバギーからおりて歩いて帰りました。食事の用意が出来るまで1歳児室で遊びます。まだ1歳児は散歩からもどっていないので1歳児のおもちゃを使えます。ままごとセットが人気でした。布の袋を4つも腕にかけてニコニコと歩き回る子どももいました。

◆1 歳児クラス

生活

遊んでいる子どもに保育士がそっと声をかけて誘い、仕切りの陰でおむつを替えます。保育士と一緒にトイレに行って便器に座る子どももいます。オシッコが出ると「すごいね」と褒められ、子どもも「出た～」と嬉しそうです。着替えはほとんどの子どもは一部を自分で出来ます。シャツを首にかけてもらって自分で手を出したり、ズボンはわかるように置いてもらってはいたり、足だけ入れてもらって自分であげたりしています。食事はスプーン、フォークを上手に使って、好きなものから食べていました。お替りをする子どももいます。食べたくない子どもには強制しません。

遊び

子どもたちは自由にブロックや人形、ままごとなどで遊んでいます。「あついね」「おはよう」「ばいばい」などの会話もあります。手作りの流し台でおもちゃの野菜を洗い、フライパンにのせ、手づくりのガス台の上で焼いている子どもいます。保育士は子どもたちの遊びを一つ一つ確認しながら「すごいね」「おいしそうだね」などと声をかけたり、ブロックを転がして掃除のまねをしている子どもに声をかけて取っ手をつけてあげたりしていました。T シャツの中におもちゃを隠して保育士に見せている子どもは、保育士が「何が入っているのかな」と覗き込むと喜んでいきます。おもちゃの取り合いがありました。バッグはたくさんあるのに色にこだわりがあります。保育士が「何がほしいの」と声をかけて一緒に歌を歌いながら保育室の中を探して歩き、あるはずのない棚の陰などをのぞいたり、他の子どもの遊びを一緒に見たりしているうちに子どもの興味が変わり、遊びだしました。ブロックでごっこ遊びをしている子どもに興味を示して遊ばたそうな子どもには、保育士が「一緒に遊ぼう」と言いながらブロックを足して広げて「これは何してるの」などと声をかけて一緒に遊べるように働きかけていました。

◆0・1歳児合同のおはなしタイム

おやつ後は、0・1歳児合同のおはなしタイムです。保育士がたたんだちょうちんを持って「でてこい」「でてこい」と歌を歌うと、子どもたちはわかっていて、「おばけ」「かぼちゃ」などと叫び、ちょうちんが出てくると「きゃー」と盛り上がります。絵本の読み聞かせでは保育士が「だれだ」と読むと子どもたちが答え、対話になります。ハロウィンの紙皿で作ったペープサートでは魔女や黒猫がタルトやクッキーを食べる仕掛けになっていて、保育士が歌いながら何回も「食べちゃった」を繰り返していると、「食べちゃった」という子どもも出てきます。まだ歩くことができない月齢が低い子どもたちが0歳児室に戻ると、皆で保育士の歌にあわせてダンスをします。ダンスの後には絵本にあわせて歌います。最後は1歳児だけの読み聞かせです。子どもたちは集中して物語を聞くことができます。毎日のおはなしタイムを通して子どもたちの言葉への興味も育っていて、保育士の言った言葉をすぐに友達とのおしゃべりで使う場面も何度かありました。

まとめ

子どもたちは職員に見守られながら安心して自由に遊び、生活し、言葉も運動能力も生活習慣も育っています。0歳児室と1歳児室がその時々で自在に活用され、子どもたちの「昼間のおうち」となって、子どもたちはおだやかに楽しげに一日を過ごしています。園の目標である「明るい笑顔でのびのびと」「保育園を昼間のお家と位置づける」が実践されています。

事業者コメント

ペガサスベビー保育園として3回目の受審となりました。今回は初めて受審する職員が多いこともあり、自己評価を行っていく中で改めて自分たちが行っている保育の仕事について立ち止まって考える良い機会となりました。

園目標の「明るい笑顔でのびのびと」の通り、子どもたちが保育園を昼間のおうちのように自分を出せる心地よさを感じながら過ごせるような保育を心がけてきました。子どもたちの言葉にならない声や表情を大切にしてきたことはこれからも変わらずに実践していきたいと思います。一方で保護者との連携や保育所の専門性を生かした地域との関わりについて等の課題については、今回の受審で工夫できる余地があることに気付くことができたので、出来ることから取り組んでいきたいと考えています。

今後も毎日の積み重ねを大切に、より質の高い保育を目指して、職員一同努力していきたいと思います。

今回の第三者評価受審にあたり、保護者の皆様をはじめご協力いただいた方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

ペガサスベビー保育園

園長 有住 享子

～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

●市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

●かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町 4-49 N G S 横濱馬車道 802 号室

TEL : 045-222-6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>
